

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
フラープ（児童発達支援）		2026年 1月 30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・利用人数により部屋を分ける工夫をしている。 ・こどもの活動に応じて部屋の利用時間を決めている。	・利用人数や利用児の特性に応じて、随時必要なスペースや空間を検討・確保していく。 ・活動によって部屋を変えることで活動から活動への気持ちの切り替えを促していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・配置人数は満たしているが、こどもの状態に応じて安全に過ごせるように部屋を分けて職員の配置を工夫している。	・今後も安全に活動できるように配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	・広い空間を手作りのパーテーションを使用しながら、遊びのスペースを区切り、遊びに夢中できるよう配慮している。	・好きなおもちゃを選択しやすいように種類ずつ遊びやすいような配置を考えていく。 ・こども達が過ごしやすい環境づくりを心掛け、活動に集中しやすい空間を確保していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・清潔な空間となるよう努力している。	・引き続き、清潔にするよう掃除を丁寧に行い、周辺環境を整えていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・午睡をとる利用児童がいるため、個別の部屋の確保をしている。	・こども達がスムーズに午睡に入れるように環境づくりに工夫をしている。
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	・日々の活動内容や利用児童への支援方法においてPDCAサイクルで次回に活かせるよう取り組んでいる。 ・朝の打ち合わせで、前回の振り返りの話題を出し対応方法を確認している。	・活動への目標と個人の関わりの統一を図るため、打ち合わせと業務の振り返りを必ず行う。 ・朝の打ち合わせでも情報共有ができる環境をつくっている。

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・保護者様からのご意見を大事にしていきたいので、全職員が確認できるよう回覧をする。	・この度の評価表を全職員が見返し、業務改善に繋げていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・退勤時間により話す機会が持てない場合にはグループラインを使用し、気づきや共有事項を聞き、伝えることができるようになっている。 ・意見を発信できる場面も作ることで日頃から発言がしやすい環境づくりを心掛けている。	・全体的話し合いは難しいが、個々や少人数での意見をくみ取る時間を大切にしている。 ・その日にあったことを連絡ツールを使用しながらその日のうちに共有している。また、細かなこどもへの支援内容などはその日の打ち合わせの際に共有していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	・第三者による外部評価は行っていない。	・同法人内の他事業所からの意見を参考にする機会を続けていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・年間の研修日を予定して、全員参加を促している。	・今後も年間の計画に盛り込んでいく。 ・職員の資質向上を図っている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・支援プログラムは、年度初めに公表している。 ・プログラムに変化のある土曜日は随時知らせている。	・引き続き、適切な支援プログラムを作成し、システムなどを活用して、公表していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	・こどもと保護者様のニーズと共に、こどもの発達の進みを吟味した職員の洞察を含めて、支援計画の作成をしている。 ・経過は、保護者の参観の時や、送迎の時に伝えるようにしている。	・情報を共有するために保護者様とのより良い関係作りに努力している。 ・関わる職員からの視点を聞き取り、アセスメントの情報を多く集めて支援の発案につなげる。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・支援に関わる職員が会議にてアセスメントを行い、保護者様との面談をし、利用児の課題を設定した計画書を作成している。	・療育に関わる担当者からの情報と保護者様、そして併用するこども園や保育園の情報を集めて、こどもの姿を考えていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	・生活活動の中で、計画に盛り込まれている項目を、関わる職員に伝えながら療育を進めている。	・計画の内容を目に見える場所に掲示するほか、職員への意識づけを検討していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	・ポータープログラムなどの指標を取り入れて対応している。 ・担当者間で日々の記録の見直しを行っている。	・家庭での姿と事業所の姿、併用機関での姿を総合的に合わせて見ていく。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・表現には理解しやすく、具体例を上げて表記している。	・生活の自立に向けた課題やコミュニケーションの力を引き出す内容を取り組みやすい例を上げて表記するよう努めている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・まずは担任、副担任との立案から行っている。 ・活動内容のアイデアは相談する場合がある。	・特性のあるこどもの育ちを大事にしながら発案をし、関わる職員の意見も取り入れている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・年間計画を立てているが、日々のこどもの様子から変更する場合もある。	・引き続き利用児童に合わせて、活動を組み立てていくことを基本としていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・発達年齢と実年齢とのバランスを考慮しながら計画の作成をしている。 ・実際の支援をしながら、計画の見直しも行っている。	・環境に慣れることが難しいこどもにとっては集団活動の負荷が辛い時間にならないように活動の組み合わせを工夫している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・前日に活動計画を発信して、当日の受け入れ前に、口頭で確認を行っている。	・前日や当日に簡単な打ち合わせを行う。 ・日案の表記を理解しやすい形で提示できるように使用していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	・当日に、職員からの意見交換の内容を記録にして、全体職員が見る場所で発信をしている。	・情報共有のみになることが多いので話し合いの場を持っていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・活動記録に関しては、その日の内に記載が終わるように努力している。	・記録の取りやすさを検討していく。 ・記録した支援内容をもとに支援の検証・改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・活動の振り返り時に、モニタリングの内容が出てくることが多いため、次回の支援計画につづけている。	・改善のための反省時間を設けている。個々のモニタリングにつなげていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	・児童発達支援管理責任者と関わる職員も同席している。	・引き続き、児童発達支援管理責任者と関わる職員が参加できるよう調整していく。

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・相談支援事業所などと連携を意識しながら連絡をとっている。	・直接の連携が難しい施設などは保護者様を通して対応していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	・定期的な会議を調整する努力をしている。	・こちらからの積極的な連絡が必要であると常々感じている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	・夏から秋口の連携会議などの際に集中して行う。	・時期を逃さないように、スケジュールを立てて行動に移すことが大切である。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	2	2	・センターとの繋がりが難しく、都合が合わないことが多いので助言を受ける機会は少ない。	・センターとの連携をもつ機会が少なく、連絡をとっても、都合が合わないことがあるので、機会があれば連携していきたい。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	・地域のこどもとの関りは、公園で偶然に出会う時のみである。	・現在は交流することはないが、今後は交流の機会があればこどもの様子を見て検討してく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・まずは、保護者様の心配事を伺いながら、こどもの発達状況を共有している。	・送迎などで保護者様と顔を合わせる時間を大切にしている。

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	・保護者様への集う会を案内しながら、勉強会の案内を含む場合がある。	・母子保育の参加を勧めながら、ペアレント・トレーニングの機会を持つように計画を立てていく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・契約時に行っている。 ・改定された時には、紙面を通して、個々に伝えた。	・契約の手続きで、児童発達支援管理責任者が伝えるべき項目を話す。 ・改正された内容については、別紙にて同意を得るように発信している。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・まずは面談の時間をとり、保護者様や養育者様の方からの希望を聞き、こどもの成長のための事柄を確認している。	・保護者様の思いをくみ取することを基本に傾聴しつつ、こどもの利益を検討し、課題の計画や段階を踏んで計画を立てるように努める。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	・計画案として保護者様に確認を頂き、同意を得ている。	・児童発達支援計画の同意をサインと印鑑で頂く際に、内容の確認を必ず行っている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・木曜日・土曜日に開催している母子保育にて行っている。	・母子保育への参加を促して、相談時の機会を設ける。 ・就労されている保護者様については、こちらからの連絡を行うように心がけてる。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	・行事や母子保育を通して家族交流を行っている。	・行事参加のイベントに保護者様やきょうだいの参加を促している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・相談を受けた職員が、直ぐに管理職や先輩職員への報告をし、対応を速やかに行う努力をしている。	・保護者様のご相談や申入れに対し丁寧な対応を心掛けている。
		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・HUGシステムやLINEを活用して、活動内容や連絡事項を発信をしている。	・HUGシステムにより、利用児童の保護者様が登録されれば、閲覧できるようになっている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・連携会議に使用する記録情報について、保護者様への了承を必ず得ている。	・今後も個人情報の書かれた書類はシュレッダーにかけるなど、個人情報の取り扱いに気を付けていく。

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・親子が活動する場面を通して、配慮への方法を伝えるようにしている。	・子どもの意志を職員側からの視点を含めて、保護者様伝えることがある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	・地域の方と出会う時には、必ず挨拶をする習慣をどの職員もできるように指導している。	・近隣の方と出会う時には、必ず挨拶を心がけている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・各マニュアルは、職員が手にすることができる場所にある。 ・必要訓練については、定期的に計画をもって行っている。	・引き続き、発生を想定した各種訓練や保護者様への実施の周知をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	・実践に近い訓練を考えて行うが、こどもの様子を見ながら段階を踏んでいく必要がある。	・非常災害での発生からのシュミレーションの実践を検討していく。 ・今後も計画的に実践していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・保護者様や養育者様からの伝達により、把握している。 ・契約時に健康の分野については、持病の情報を必ず確認する。	・事業所での投薬は行っていませんが、家庭での服薬情報を共有し、日中活動での体調に変化があれば保護者様にお伝えしております。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	・現状、医師の指導が必要な児童はいない。	・今後、アレルギー体質のこどもの受け入れる場合は適切に対応していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	・日々の改善やヒヤリハット、トラブル発生後の改善策を実践につなげている。	・危険予測が常に職員の業務内で意識できるように注意喚起を児童発達支援管理責任者が行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	・送迎マニュアル、子ども見失い時のマニュアルを作成している。	・保護者様への説明の機会を持つていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	・ヒヤリハットの報告については、必ずその日に児童発達支援管理者へ伝えるように指導しており、対策については、すぐ解決するよう行動している。	・小さな出来事においても、報告をすることで、安全に対する改善を勧めている。

	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・研修により、虐待の様々な事例を聞き、支援後に振り返る時間をもっている。	・職員研修を開催して、虐待防止について確認する機会をもってる。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	・児童発達支援計画に記載し、保護者様への説明を充分に行う。 ・他児への影響がないように声掛けや場面の説明を話している。	・児童発達支援計画の内容を確認するうえで、やむおえない事由を説明し、計画への記載部分を知らせている。